

令和5年度 とやま新時代創造創造プロジェクト学習推進事業
実施報告書【学校課題実践校用】

学校番号	50
学校名	富山県立富山総合支援学校

学校の現状と課題	本校では、学校教育目標「豊かな心と主体的に生きる力を養い、自立と社会参加を実現できる人間を育成する」を踏まえ、学校生活全体を通して、一人一人の教育的ニーズに応じた指導や支援の推進を図ってきた。その中で、本校の児童生徒の課題として挙げてきたのが、「支援が必要な場面が多く、自発的・自主的に行動しようとする態度が育ちにくい」、「集団の一員としての自覚に乏しく、相互理解や協力する態度が希薄な児童生徒がいる」といった社会参加の基本に関わるものであった。さらに、「学部間での交流の機会が少なく、全校児童生徒が親睦を深め、互いの良さを知ったり、関わったりすることがあまりない」という学びの機会の設定に関する課題もみえてきた。	
テーマ(特色)	ポッチャに親しむ活動を通して、児童生徒同士が交流を深め、協調性と互いを尊重する精神を養うとともに、余暇活動の幅を広げ、興味・関心をもって自主的に活動に取り組もうとする態度を育てる。	
設定した「テーマ」の達成状況	本校では、児童生徒が、個々の実態に応じて自分なりの取り組み方でチームの一員としてゲームに参加することができるポッチャを、これまでも体育・保健体育科の年間指導計画に位置付け、取り組んできた。しかし、ランプをはじめ、ポッチャ用具が十分にそろっていないことから、補充・整備が必要であった。また、ポッチャについてより一層理解を深めることは、児童生徒のみならず、教職員にとっても、交流機会としてポッチャに親しむ活動を実施するに当たり有効なものではないかと考えられた。 購入するポッチャ用具の選定に当たり、これまで専用のものがなく、軒樋等で代用していたランプを2台購入した。また、古くなって入れ替えの必要があったボール等ポッチャセットも購入できた。 児童生徒がポッチャに親しむ活動を通して他者との交流を広げ、深めることができるよう、機会の設定に努めた。自校の児童生徒同士、他校の児童生徒と、あるいは保護者や教職員と、共にポッチャを楽しむ機会をもつことができた。 体育・保健体育科の授業を中心に、ボールの扱いに慣れたり、基本的なルールを確認したりする学習を積むとともに、外部講師を招いてポッチャ体験会を実施することで、知識を整理し、技能を高める機会とし、より自信をもってポッチャに取り組めるようにした。	
実施内容 (具体的に記入する)	○ ポッチャを通しての交流活動の推進 各学部の運動会の競技種目にレクリエーションポッチャを取り入れ、仲間と声を掛け合って活動する機会とした。また、小・中学部児童生徒の近隣小中学校児童生徒との学校間交流において、ポッチャに親しむ活動を通して交流し、相互に理解を深める機会とした。さらに、PTA行事においてポッチャを通しての交流を実施し、友達やその家族とゲームを通して楽しい時間を共有し、親睦を深める機会とした。 ○ 外部講師によるポッチャ体験会の実施 当初、予定していたパラリンピックメダリストによる講習会は、当該選手に海外での試合の予定が入ったことにより実現しなかった。そこで、公認審判員の方をはじめ、富山ポッチャクラブ、富山県障がい者スポーツ指導者協議会から7名の方を講師として招き、小・中学部、高等部の二部制で体験会を実施した。児童生徒のみならず、教職員にとっても、ポッチャの基本的なルールや競技の進め方について実践的に学ぶ場となった。 ○ 全校ポッチャ大会の実施 全校児童生徒が学部の枠を超えて交流できるよう縦割りのチーム編成を行い、事前に顔合わせ及び予選トーナメントの組合せ抽選会の時間を設定してチームワークを醸成した。大会当日は、全員が体育館に集合して予選トーナメントから決勝トーナメントまでを行った。予選トーナメントから、全校児童生徒が一堂に会して行うのは、コロナ禍以来のことであった。 ○ ポッチャ用具等の整備 ポッチャセットとランプを購入し、ポッチャ大会や体育・保健体育科等の授業で活用した。組み立て式のランプは軽量で、あらかじめ組み立てて体育館ステージ脇に置くことで、すぐに使えるようにした。	
取組による成果 (プロジェクト学習推進の観点から)	各取組において、チームの一員として、周囲と一緒にポッチャに親しみ、楽しい時間を共有する児童生徒の姿がみられた。児童生徒同士の協調性と、互いを尊重する精神、興味・関心をもって自主的に活動に取り組もうとする態度が育っていると考える。 ポッチャを通しての交流活動の推進では、常日頃から関わりが多くある友達や教職員のみならず、他学部の児童生徒や教職員、他校の児童生徒、友達の家族等とも活動を共にした。参加した児童生徒から次回への期待の言葉が聞かれることも多く、他者と交流することへの自信と意欲につながったと思われる。 外部講師によるポッチャ体験会の実施では、体験会という改まった行事において、外部講師から分かりやすくルールの説明やゲーム運びへの助言を受け、気持ちに張りをもって積極的に参加する児童生徒の姿がみられた。 全校ポッチャ大会の実施では、児童生徒会執行部が中心となり、協力して準備や当日の進行を行うことができた。ゲームでは、チームで声を掛け合って取り組んだり、他のチームに熱心に声援を送ったりして、充実した時間を過ごすことができた。大会後も、児童生徒から「来年もぜひ盛り上がる大会にしたい」との意気込みが聞かれている。 ポッチャ用具等の整備では、特に専用のランプの購入が有効であった。これにより、肢体不自由が重度でも、ボールをランプ上部にセットして、専用の穴から指でボールを軽くつついたり、触れたりすることでボールをスタートさせることができるようになり、児童生徒がより自発的・自主的にゲームに参加できる幅が広がった。また、土台があることで、支えなくてもランプが安定しており、教職員が児童生徒への関わりに集中できるようになった。	
対象者(学年・人数など)	本校児童生徒、及び、教員(小学部、中学部、高等部) 約150名	
実施実績	4月	
	5月	・各学部の運動会における競技「ねらえ！センター！」の実施
	6月	・ポッチャ用具の購入計画立案
	7月	・「ポッチャ体験会」講師決定、実施計画作成
	8月	・中学部における近隣中学校生徒との学校間交流での活動
	9月	・「ポッチャ体験会」実施計画(細案)についての協議(生徒指導部)
	10月	・ポッチャ用具の体育館ステージ脇への設置 ・「全校ポッチャ大会」実施計画(細案)についての協議(生徒指導部)
	11月	・体育・保健体育科の授業における取組 ・小学部における近隣小学校3年生との交流及び共同学習(ゲーム交流)での活動 ・「PTAふれあい交流会」における交流
	12月	・外部講師による「ポッチャ体験会」の実施 ・「全校ポッチャ大会」の開催による交流
	1月	
2月	・取組のまとめ	
3月		